

全 国 大 会 研 修 報 告 書

研 修 日 平成 2 1 年 3 月 2 8 日(土)

研 修 場 所 東京都 国立代々木体育館

報告者 西部地区 萩市

椿東男子 金 崎 務

第40回全国ミニバスケットボール大会を観戦して

当日の東京の天候は曇り、最高気温11と3月下旬なのに非常に肌寒い日である。第一体育館及び第二体育館ともに「友情、ほほえみ、フェアプレー」の精神のもと、選手たちの元気いっぱいのプレーと育成会保護者の応援に会場内は、熱気に包まれていた。

第一日目は、予選リーグであるが、山口県3チームが出場する第二体育館で観戦をした様子を報告します。

AM 10:30 Fコート

| | | | | |
|--------|----|---|----|----------------|
| 角倉ミニバス | 10 | - | 2 | 大深内ギャロップス(青森県) |
| (33) | 6 | - | 12 | (20) |
| | 8 | - | 4 | |
| | 9 | - | 2 | |

角倉は、ディフェンスがよく相手チームがリング下に入れずミドルシュートを打つが、得点できず苦しんだ。やはり、スピードでは角倉の方がいいと感じられた。ただし、2Qについてはゾーンディフェンスをしていたが、角倉のファウルが目立った。相手にフリースローでの得点を与えてしまった。パスミスも多く見られた。

PM 1:45 Fコート

| | | | | |
|-----------|----|---|----|------------|
| 長府マジスティクス | | | | 椿井アキズ(奈良県) |
| (61) | 17 | - | 10 | (38) |
| | 14 | - | 8 | |
| | 12 | - | 8 | |
| | 18 | - | 12 | |

長府は、160 cm以上の選手がいない小柄なチームである。一方、椿井チームは170 cmが二人・160 cmが三人と山口県内では見たことのない大型チームである。いつも男子しか見ていないので、非常に興味深く楽しみであった。

長府は、オールコートディフェンスで1対1時には、1対2で確実に大きい相手を止めていた。オフェンスでは、小柄なチームを生かすスピードと正確なパスにより、相手チームよりファウルをもらい得点につなげる。椿井チームは、4Qに一人5ファウルで退場となってしまった。

又、リバウンドボールは長府の選手が、椿井チームの大型選手より取るシーンが多く見られた。

PM 5:00 Fコート

| | | | | |
|--------|----|---|----|--------------|
| 名池ミニバス | 4 | - | 10 | 大和田ミニバス(埼玉県) |
| (32) | 14 | - | 10 | (34) |
| | 8 | - | 5 | |
| | 6 | - | 9 | |

1Q名池は、相手チームのディフェンスに苦しめられ、パスミスやフリースローの得点率が低いのが目に付いた。又、スピードも相手が上回っていた。2Qになり、相手ディフェンスの隙を突いて中央攻撃ができるようになり、相手チームのファウルが出るようになり、フリースローによる得点も確実性がよくなってきた。

後半になり、双方ともに動きがよくなり一進一退のてんかいたなり、名池が1点勝ち越しで4Qのスタートとなった。名池は、ゾーンディフェンスをとり相手チームは、ミドルシュートを放つが得点できずにいた。残り1分を切って試合が動きだし、名池が勝利をかけてシュートしたが入らず相手ボールとなり、残り2秒で痛恨のファウルをとられてしまった。2スローの1本目を決められて、会場から歓声と悲鳴があがったが、2本目も決められ試合終了となった。

以上県内チームの試合他を観戦し感じたことは、
基本ができており、バイオレーションがない。
集中力の持続性が高い。
基礎体力のレベルが高い。
各選手の技術レベルが高い。(基本がしっかりしている。)

私の所属チームは、2部チームであるが
基本の反復練習
集中力の持続性

この2つは、ミニバスを指導していく上で改めて大切なことだと痛感しました。日々の練習の中で、これからの指導に生かしていきたいと思います。

今回、全国大会研修の機会をいただきましたことに心より感謝申し上げます報告と致します。

以上